

30年10月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 10月1日～ 30年10月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
10月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/10月	11月	12月
仕入動向	国産材製材品	0.0	△ 14.3	△ 21.4
	外材製材品	0.0	0.0	△ 28.6
	構造用集成材	8.3	8.3	△ 33.3
消費動向	国産材製材品	0.0	△ 14.3	△ 21.4
	外材製材品	△ 7.1	0.0	△ 28.6
	構造用集成材	△ 8.3	△ 8.3	△ 25.0
在庫動向	国産材製材品	0.0	△ 21.4	△ 21.4
	外材製材品	△ 14.3	△ 21.4	△ 28.6
	構造用集成材	0.0	△ 8.3	△ 16.7

・国産材製材品の仕入動向は10月の横ばいから11月、12月は減少に。外材製材品は10月、11月の横ばいから12月は減少に。構造用集成材は10月、11月の増加から12月は減少に。
・国産材製材品の消費動向は10月の横ばいから11月、12月は減少に。外材製材品は10月減少から11月の横ばい、12月は再び減少に。構造用集成材は3カ月連続減少。
・国産材製材品の在庫動向は10月の横ばいから11月、12月は減少に。外材製材品は3カ月連続減少。構造用集成材は10月の横ばいから11月、12月は減少に。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	30/10月	11月	12月
受注	28.6	21.4	△ 28.6
加工	21.4	21.4	△ 21.4
受注残	21.4	7.1	△ 21.4

・プレカット工場の受注、加工、受注残の動向は10月、11月の増加から12月は減少に。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

・品薄感から脱却、強含みで推移していきだろう。消費は国産材製材品順調に推移。外材製材品は量・価格とも保合。高値安定感あり。在庫は増加抑えて手当。構造用集成材は該当なし。
・仕入動向は、海外製品は予定より早めの入港になっている。この時期の消費を考えれば構造用集成材が少ない。構造用集成材の在庫は多めになると思うが、翌々月には解消される予定。
・県産材使用に係る補助物件があり、9月はやや増加。

(受注動向)

・年内引き渡しで出荷のみ増加。受注・加工とも微増で秋需感なし。
・秋需を期待していたが、そのような動きにはならないようだ。
・年末までは忙しい。例年1～3月は仕事量減少。